



# 入船だより

横浜市立入船小学校  
校長 中村 公俊  
学校だより 7月号  
令和4年6月30日発行

## 閾値 (いきち) をめざして

がっこうちょう なかむら きみとし  
学校長 中村 公俊

突然ですが、みなさんは閾値 (いきち) という言葉をご存じですか。私は数年前にある方から聞き、知ることになりました。「うちの会社では、閾値を大切にしているんです。このことが、お客様へのサービス向上につながります。」といった内容でした。

### 閾値 (いきち)

数値的な境目、境界線。値が所定の水準を超えると、特定の反応が生じたり切り替わったり等の変化が生じる、という場合に、その所定の水準が閾値と呼ばれる。  
(実用日本語表現辞典より)

辞書には、上のような意味が載っています。その方の解釈では、「努力し、ある一定量の仕事を覚えて一人前になると、その仕事を忘れることなく、社会人として立派に育っていく。」ことだそうです。つまり、身につくまでは大変かもしれないが、一度身につくと、いつまでも体や脳が覚えていて、忘れることがない、という意味になります。分かりやすい例として「自転車」が挙げられます。自転車に乗れるまでは、何度も転んだり、やめたくなくなったりするのですが、一度コツをつかむとすいすい乗ることができ、また、何年間乗っていなくても、さっと乗ることができてしまう。スキーやスノーボード、運動会のソーラン節や逆上がりなどもこれにあたると思います。体だけでなく、頭を使った「閾値」もあります。例えば、横浜市歌や小中学校の校歌などが挙げられます。しばらく歌っていないなくても、メロディーや冒頭の歌詞を聞くと自然と歌えてしまいます。印象深い出来事もそうです。修学旅行の思い出などが挙げられます。

今月も様々な行事がありました。3・4・5組の宿泊学習、6年校外学習、体力テスト、土曜参観、ギネスに挑戦、4・5年校外学習、交通安全教室。これらの行事のなかで、様々な

「できたこと・覚えたこと、忘れられない思い出」があったと思います。日頃の授業も含めた、学校生活のなかで身につけたものをぜひ、

「閾値」まで高めてほしいと思います。何度も何度も練習したり、失敗したりすることは、苦しいかもしれませんが、できたときの喜び、覚えたときの嬉しさは、格別です。決して忘れることのない「閾値」をめざしてください。

